

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設場所】

No.	意見内容	市の対応
1	軟弱地盤に建つ建物も充分耐震的であり、現状敷地利用も大きな選択肢の一つ。	現在の技術力から考えますと軟弱地盤であっても建物を建設することが可能かもしれませんが、東日本大震災後の状況下で、あえて地盤に心配がある場所に建設を行うことは好ましいとは評価できないと考えております。
2	現在の技術力をもってすれば、あの場所に再建しても地震に耐えられえる建築物は可能はず。	
3	静岡県防災GIS情報閲覧ページによる被害想定において、地震動・液状化建物被害率、推定液状化建物被害率、延焼危険度は、いずれも現市民病院の方が数値が低い。	静岡県が公表しています東海地震を想定した第3次地震被害想定結果においては、現在の病院が建設されている場所は、病院敷地西側であり敷地全体の中では、地盤が良好な場所に建設されております。東日本大震災後の状況下の中で判断しますと、推定震度及び液状化危険度の想定において高い判定がされている場所を含んでいる現病院敷地は、地盤が安定しておらず、新病院を建設する場所としては、好ましいとは評価できないと考えております。駐車場等の周辺部までを考えますと、より安全性の高い場所に病院が建設されるのが好ましいと考えます。延焼危険度は、中心市街地の方が、現島田市民病院周辺より建物が密集しているため、高い評価がされております。今後、消防と連携しながら、新病院計画と合わせて策定を検討している新病院に係るまちづくり計画等を策定する中で対応について検討してまいります。
4	地盤について、「静岡県防災GIS情報」によれば、危険度なしの青判定である。現市民病院も建設時、地盤の悪さは承知の上で当然の地盤強化を施行した結果の危険度なしの判定である。したがって、確かに地盤状況は良好ではないが、それを念頭においた十分な地盤強化を施工すれば問題なしといえる。	
5	『静岡県防災GIS』によれば（ア）島田市民病院箇所は、液状化の発生の可能性が無となっている。（イ）島田市民病院駐車場付近は、液状化発生の可能性が低い。（ウ）看護専門学校付近は中（液状化発生の可能性がある）となっている。本記述は、軟弱地盤の対策・改良がなされる前の状況を書いていると思われ、現況と異なっており誤解を与える。	
6	現在の場所が軟弱地盤であったのに、なぜ市役所横の最も立地のよいところから移転できたのか。	
7	軟弱地盤の問題は現病院を建設する時に分かっていたはずで、今それを問題にして建設不可というのは納得できない。	
8	現在地の地盤が良くない説明があるようであるが今までの30年間はその安全性をどう考えていたのか。	敷地規模、動線、事業費などにつきましては、基本計画や設計等の策定段階で検討してまいります。また、新病院計画と合わせて新病院に係るまちづくり計画の策定を検討しておりますので、交通環境等につきましても今後検討してまいります。
9	34年前に建設した現在の病院敷地の軟弱地盤問題は、当時の病院建設には考慮されなかったのか。	
10	旧ジャスコ周辺への新病院新築移転については、種地が狭小で用地確保に費用がかかるであろうこと、新病院でわざわざ高層にすることは得策ではないこと、患者や見舞い客等を中心市街地活性化の起爆剤として期待すること、道路等の交通量増加に対処できず手直しが必要になり来院アクセスに多額の投資が必要であろうことや今後のハードの増設の要請に応えられないのではないかとすることを考えると反対である。	
11	狭隘敷地への建設が提案されている。災害基本耐性の不足や将来の発展性が制約されることに不安がある。	新たな医療技術の進歩による増設が予測される一方で、将来的には少子高齢化や人口減少も予測されております。現状予測しうる範囲の中で将来への懸念がなくなるように災害対策を十分考慮し、新病院建設事業を進めてまいります。
12	地盤判断について、各候補地を現市民病院と同様の詳細な調査と分析のもとで個々の地盤状況を判断し、比較すべきである。	候補地の段階で個々の地盤状況について、ボーリング調査などで費用を投入し、検討することは考えておりません。今後、現状推定できるデータを基に新病院建設地を検討し、その後、必要な地盤調査を行ってまいりたいと考えております。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設場所】

No.	意見内容	市の対応
13	現市民病院の弱点を克服しつつ、現地への建て替えが適切ではないかと考える。	現状においては、平常時・災害時を問わず重要な施設でありますので、耐震化や老朽化などの観点から耐震補強ではなく、建て替えを考えております。パブリック・コメントでいただきましたご意見を参考にしながら、新病院の建設場所につきましては、総合的なまちづくりの観点から検討を進めてまいりたいと考えております。
14	現在地での建て替えを希望する。	
15	現地建て替えや耐震改修に全力をかけ、税金を大切に使ってほしい。	
16	今ある市民病院がしっかり機能しているの、そのままでもいい。お金を使い、まちなかに移転する必要性を感じない。	
17	来院患者等に対する安全等に関しては、静岡市立病院・静岡日本赤十字病院等が中心市街地で従前の位置に安全対策を講じながら建て替えた例など沢山ある。現島田市民病院は他カ所に比べて44,502.92㎡と広い敷地面積を持ち現在の土木技術をもってすれば、十分に立替可能と考えられる。	
18	病院は、中心市街地と郊外との境界領域くらいにあるほうが、病院としての機能を発揮できると考える。	
19	未利用の大規模種地があるのであれば、市役所周辺への病院の移転を希望する。市役所は、「旧ジャスコ周辺」に新築移転すれば、病院のための土地確保よりは少なく済むのではないかと。また、病院がまちなかに鎮座すると、大きなイベントの開催に支障となるが、市役所なら1階をオープンスペースとして開放すれば、中心市街地集客の一案になる。なお、市民会館は老朽化により撤去するか、改めて別途必要かどうかを含めて検討する。	
20	土地面積の少ない候補地番号3・5は、想定床面積38,000㎡と駐車場床面積に必要な12,500㎡は確保できるのか。	
21	旧ジャスコ周辺地区は、駐車場を含む病院機能のすべてを移すに足る用地確保が出来るとは思われな	
22	わざわざ狭い場所へ移すなど考えられない。	
23	全体としてこの案は島田中心部のことを最優先にしているが、島田市民全体を対象として病院建設を考えるべき。第3のアイデアはないのか。	利用目的が決定している場所であり、新病院建設候補地としては、検討しておりません。
24	中心市街地移転は反対。現地を含めた郊外での建設を希望。	
25	島田球場ならびにその近隣グラウンドを第1候補地として提案する。	
26	どうしても移転するといふのであれば、旧金中跡地が良いと思う。	

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設場所】

No.	意見内容	市の対応
27	現地建て替え案を捨て、新病院を中心市街地に建設する必然性を説明するには、不十分な内容である。	<p>現在地につきましては、軟弱地盤や建て替え期間中の駐車場や安全対策などの面から好ましいとは評価できないと考えております。今後の新病院建設場所の検討につきましては、基本構想で検討しました新病院建設候補地を基に比較検討を行ってまいります。</p> <p>新病院建設事業は、総合的なまちづくりの視点から立地場所について検討しております。療養環境等につきましては、基本計画等の策定段階において、検討してまいります。</p>
28	野田でなぜだめなのか。納得のいく説明がほしい。	
29	平成21年3月策定の「新病院基本構想」は、地盤強化を前提として、現在地での建て替えの方向性を示したものである。	
30	築34年、耐震「やや問題あり」で建て替えが必要という判断が納得できない。	
31	現在地を切り捨てる請求さが理解できない。平成22年9月以前までは現在地と公表していたのだから、方向転換したい理由を分かりやすく具体的に、改めて市民に説明し納得させる義務だけは不可欠と考える。	
32	これまでの「現敷地内での建て替え案」と比較した資料提示がまったくない。政策変更した詳細な理由と経緯及び改革プランと今回の構想が比較検討できる資料を求める。	
33	現島田市民病院位置に建て替えをした場合の概略事業費、郊外地（例えば金谷中学校跡地）に建築した場合の概略事業費位は、比較の対象として明示すべきと考える。	
34	なぜ現在地との検討項目や比較データがないのか。	
35	既存施設の再利用、現敷地での建て替え、5つの建設候補地を新築建て替えした場合の、それぞれの比較検討結果を多面的に知る資料の提供を求める。	
36	自然に囲まれた現在地は治療効果大です。	
37	病院が老朽化して建て替えが必要なら、郊外で縁に囲まれた現在の所に新しい市民病院を建ててください。	
38	病人にとっても広々とした環境の中で生活することが一番。	
39	ゆっくり病をいやすための施設が街中に移されるデメリットは無視できない。	
40	心がいやされる縁の見える入院生活を患者として生きていきたい。	
41	コンパクトシティの考え方は分かるが、患者に与える影響として郊外への建設など環境面の比較検討はされたか。	
42	入院患者に良い環境を提供することはできるのだろうか。	
43	入院患者は、喧騒よりも心の安らぎを求めるのではないか。広域な医療の拠点になるべきであり、それには患者にとって良い環境であることが重要。	
44	市街地は、病人が病気を治療する場として相応しくない。	

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設場所】

No.	意見内容	市の対応
45	大津地区の住民の反対で市民病院の敷地内にヘリポートが作れないとの話を聞いた。これも移転の重要ファクターと聞いている。これはおかしい話である。	災害拠点病院であるためには、ヘリポートの設置が必要になります。建設場所を検討する中では、ヘリポート設置を含め、総合的なまちづくりの視点から検討してまいります。
46	旧ジャスコへの移転が規定路線で、他の4候補は当て馬として並べたに過ぎないと思われる。	新病院建設地は特定しておらず、今後検討してまいります。
47	市の中心部に中核的医療機関を整備するという考え方自体については賛成である。ただし、現在の市民病院を全面的に移転するという構想については疑問の念を禁じえない。病院機能の全面的な移転ではなく、部分的な機能のみの移転でも十分に目的を達成することが出来るし、考えられる弊害も避けることが出来ると思う。	今回のパブリック・コメントで敷地規模や交通環境への対応などのご意見を皆様からいただいておりますが、現状では、市民病院全体の建て替えを検討しております。今後、基本計画等の策定段階で考えられる弊害に対応できるように検討してまいります。
48	建造物は、50年もすれば再建築が必要。その時を考えれば高層ビルを建てるのではなく、今の土地をうまく利用して、再建築の方法論を確立したほうが良いと考える。	さらに50年後には、人口が減少し、医師不足問題など志太榛原保健医療圏の状況も大きく変化している可能性がありますので、現在地にこだわることなく、現状考えうる範囲の中で、将来を踏まえた新病院建設を進めてまいりたいと考えております。
49	搬送・ロジ（物・人）は、災害時であっても生命線であるので、病院の立地にはアクセスの利便性を最優先に考えることが肝要。交通の利便性を生かせる立地と広い敷地・スペースは、根本条件。	災害時対策は重要なテーマであります。新病院建設地の検討にあたって、参考にさせていただきます。
50	候補地の5ヶ所を選んだ基準が分からない。	候補地は、まちなかを対象として、核となるべき種地が見込みうることや島田駅との関係性を踏まえて選定しております。
51	ヘリポートの騒音問題は、郊外より中心部のほうが問題が大きいです。	どちらが問題が大きいか一概に言えませんが、中心部は建物が郊外と比較して密集しているのが特徴でありますので、その点に留意しながら今後の検討を進めてまいります。
52	新島田市民病院の建設が予定される場所は、狭い敷地しか確保できない。中心市街地にヘリポートを設置することは、安全性や騒音等を考慮すると疑問が残る。	敷地規模については、今後、適切な敷地規模を検討してまいります。また、ヘリポートの設置につきましても、安全性や騒音等に配慮した計画づくりを進めてまいります。
53	国道1号線が震災時に分断される等の記載があるが、国道1号線を管轄する国土交通省浜松道路維持出張所の見解は、震災に耐えられるものとのことであった。	静岡県が公表しています東海地震を想定した第3次地震被害想定結果においては、現在の病院が建設されている北側は、推定震度及び液状化危険度の想定において高い判定がされている場所を含んでおり、現病院への最終的なアクセス道路は国道1号となっているため、分断が危惧されると考えております。
54	現在の病院ではそばに国道1号バイパスが走っているが、震災時の地盤は大丈夫なのか。	
55	車社会になっている現在、今の市民病院はバイパスに近く、大変便利。	現在地は、自動車での来院の場合、国道1号藤枝バイパスなどが至近であり、利便性は高いですが、最終的なアプローチ道路は国道1号のみとなっております。ネットワーク化された道路網によるアプローチになっていない状況でもあります。今後は、電車やバスなどの公共交通の活用も含め、交通環境について検討してまいります。
56	近年の道路整備による利便性を踏まえ、島田市民病院が島田市民に等しく医療サービスを提供する施設であることを考えれば、利便性の点から現在地がより適当であることは明らか。	
57	移転候補地について、患者や職員の利便性を本当に考えて候補地を打ち立てているのか。	患者や職員の利便性などを含め、総合的なまちづくりの観点から候補地を検討しております。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設場所】

No.	意見内容	市の対応
58	このような病院では、公的な総合病院としての責任を十分に果たすことはできない。いざという時に、質的にも、量的にも、市民の安心・安全をしっかりと保障できる機能を備えた病院を建設すべきである。災害時における病院の役割という観点からも、ジャスコ跡地は、新病院の候補地としては不適と考える。	市民の安心・安全を守る病院としての機能を果たせるように、災害時対応を含め、基本計画や新病院計画と合わせて検討を予定している新病院に係るまちづくり計画等を策定する中で検討してまいります。
59	市街地では、土地が狭く、高層化は避けられない。停電でエレベーターが停止した場合、搬送・配膳は人海戦術であり、エレベーターの再起動には、専門家の点検が必要になる。	敷地面積に制限はできると考えられますが、災害時対応を踏まえた基本計画等を策定し、建物の耐震性能及び安全性に十分配慮してまいります。
60	防災拠点病院に設置されるヘリポートは病院敷地内に原則設置される事になっている。中心市街地に安全に離着陸できるヘリポート設置は出来るのであろうか。又、大井川河川敷（高水敷）に設置される防災ヘリポートとの近接性が触れられているが、洪水警報（この警報が出る頻度は高い）が発せられれば高水敷であろうと河川敷は使用不能となるので防災拠点病院の計画には盛り込まないのが原則ではなかろうか。	中心市街地におけるヘリポートの設置につきましては、安全性や騒音等に配慮した計画づくりを進めてまいります。また、大井川河川敷の防災ヘリポートは、河川敷という特性から利用できない場面は想定されますが、現実にある防災ヘリポートという点では近接性は言えると考えております。
61	負債が残っていること、解体費用がかかることを考えると、新たなところで新設する必要性は疑問。	現状においては、平常時・災害時を問わず重要な施設でありますので、耐震化や老朽化などの観点から耐震補強ではなく、建て替えを考えております。新病院建設場所につきましては、総合的なまちづくりの観点から検討してまいります。
62	平成21年度の各駅への乗車人員（島田駅：六合駅：金谷駅＝1：0.55：0.40）を持って、中心性を論ずることが出来るのか？又、乗車人員に降車人員が含まれていないとすれば、中心性を論ずることは出来ない。	島田駅周辺は、市内でもっとも乗車人員が多く、基盤整備がされている場所であることから、市の中心駅であると捉えることはできると考えております。なお、統計データにおいて掲載されているのは乗車人員のみですが、平成21年度においては、各駅とも定期券による利用割合が6割を超えており、一定割合の降車数が見込まれますので、乗降者数の違いによる中心性の議論に大きな影響を与えるものではないと考えております。
63	何故、本通2丁目交差点が中心（起点）として設定されているのか。又、500mの徒歩圏の起点を本通2丁目としているが何故か？ここは交通結節点でもないと思われる。ここからの歩行者の発生トリップはどれくらいか資料を明らかにされたい。	島田市中心市街地の構成として、東西方向に伸びる旧東海道沿いと、駅と市役所を結ぶ南北方向との2つの道路を軸として構成されていると捉えられます。そこで、この2つの軸が交わる地点である本通二丁目交差点を、中心としております。
64	市の中心部に移転することになると、自動車利用者は不便な、使い勝手の悪い立体駐車場を使わざるを得ない。とりわけ高齢者にとって極めて不親切で不便な病院移転計画といわざるを得ない。大型店撤退は、不便な駐車場問題にあったことを思い出すべき。	今後の基本計画等の策定段階において、使いやすさと安全性に配慮した駐車場を検討してまいります。
65	島田市民のほとんどは、車で移動しての生活である。坪単価の高い土地を駐車場や院内保育園の為に買わなければならないことを考えたら、まちなかに建設することはデメリット。	院内保育所につきましては、病院に必要な施設でありますので、基本計画等を策定する段階で、検討してまいります。また、駐車場や交通アクセスにつきましては、基本計画や設計等及び新病院計画と合わせて策定を検討している新病院に係るまちづくり計画において、検討してまいります。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設場所】

No.	意見内容	市の対応	
66	日常でも、回遊する歩行者が増えると、受診に来る患者の車や救急搬送する救急車との接触事故などが増えるため、中心市街地での病院建設はデメリットが大きい。	駐車場の配置、渋滞や安全対策等の交通問題につきましては、基本計画や設計等及び新病院計画と合わせて策定を検討している新病院に係るまちづくり計画において、検討してまいります。	
67	まちなかに新設された場合の渋滞や行事による交通止めを考えた場合、これだけでも川根方面の方々には藤枝市民病院や平成病院に行けといわんばかり。		
68	周辺地域に住む人々は、少し遠くなっても藤枝などの総合病院へと流れていく可能性も否定できない。		
69	病気を持った患者が、電車やバスを利用するか、患者も職員も不便な病院に、人が集まるか。		
70	駅から市民病院まで、高齢者でも歩けるのか。		
71	今の町中の道路が特別広いわけでもないのに、病院に行く車が多くとても危険に思う。		
72	公共交通機関以外の利用者が自家用車で来院した場合、中心市街地に設置される立体駐車場設置箇所等及びこれに出入する車両による道路の渋滞等のデータは、本資料に示されておらず、立地性を検討できない。		
73	郊外型・車社会の町づくりが主流であり求められる中、この島田市で時代を逆行するような計画がうまくいくとはとても思えない。		
74	中心市街地への移転は、1階敷地が狭く、緊急時、負傷者の収容が充分に行えないと考えられる。		今後の検討の参考とさせていただき、基本計画等の策定段階において、災害時対応も含めて検討を行ってまいります。
75	本当の防災を考えたら、まちなかに建設することはデメリット。		
76	中心市街地の立地については、地盤については問題なし。だが、朝の渋滞、駐車場の確保、騒音への対策、そして、震災時には区画整理していない旧ジャスコ以東の住宅密集地の倒壊、火災は不可避で、こちら方面からのアクセスは不可能。混乱時には負傷者の運搬、応急処置のため病院周辺には広い面積が必要だが、それも困難。		
77	災害時にはエレベーターが使用できなくなるので、1階のみで病院が対応しなければいけない。街中の病院では十分な1階面積を確保できない。		
78	大規模災害時における病院の機能を考えた場合、病院に隣接した広いスペースが必須の条件であるが、中心部では、敷地等の制約があり広場の確保が困難である。病院も高層階の建物にならざるを得ない。		
79	病院があるから、バスも何とか運行されていると思う。今病院のまわりで商売をしている人は、どうでもよいのか。	新病院建設につきましては、総合的なまちづくりの観点から検討するものです。その中で、バスの運行についても検討を行ってまいります。	

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設場所】

No.	意見内容	市の対応
80	中心市街地への移転は、大規模地震のとき、建物の倒壊等で救急車が病院まで到着できなくなる恐れがある	災害時には場所を問わず、車での移動が困難になることがあります。災害時の対応につきましては、今後検討してまいります。中心市街地は、都市生活拠点でありますので、中心市街地に病院があることは、災害に強いまちづくりの一環になると考えております。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設計画】

No.	意見内容	市の対応
1	隣の病院が同じようなことをしてつづれかかっているのに、同じようなことをして、なおかつ隣が潰れたら患者がより多くなる可能性があるにもかかわらず病床数を少なくする理由が全く分からない。	敷地規模、動線、事業費などにつきましては、基本計画や設計等の策定段階で検討してまいります。また、新病院計画と合わせて新病院に係るまちづくり計画の策定を検討しておりますので、交通環境等につきましても今後検討してまいります。
2	今の病院は、耐震補強すればまだ維持でき、老朽化の件でも改善できると思う（資金を投入すれば）これ以上借金を増やさないようお願いします。	現状においては、平常時・災害時を問わず重要な施設でありますので、耐震化や老朽化などの観点から耐震補強ではなく、建て替えを考えております。
3	病院の継続的運営に不可欠な医師確保の視点が弱い。立地というハード的視点だけでなく、ソフト的視点が必要と考える。	この構想では、総合的なまちづくりの視点から病院の立地を主に検討を行っております。ソフト面につきましては、普段からできることもありますので、市民病院と連携しながら新病院建設を進めてまいります。
4	地域住民への医療サービスというソフトの基盤の上に、ハードとしての病院建設を考えるべきであるが、今回の構想にはこの視点が欠けている。	
5	移転先、病院規模、病床数等の説明や資料がないため、コメントできない。	移転先につきましては、平成24年度後半から検討を開始し、病院規模、病床数等につきましては、基本計画等を策定する中で検討してまいります。
6	この構想は、病院の役割が抜け落ちているように感じる。	この構想において、平成21年3月に策定しました新病院基本構想等を踏まえ、地域の基幹医療施設として現在の役割を前提に計画しておりますが、今後、基本計画策定段階において、新病院の基本理念、基本方針、機能等について検討を行い、安心して通える病院づくりに努めてまいります。
7	何処に作るのかではなく何を創るかを決めないと構想の意味を持たない。	
8	病人が安心して通える所としてもっと考えてほしい。	
9	今度の病院は、社会状況の変化に合わせた発展・進化が期待されるものとする。その時、もっとも制約になるのは敷地の余裕の有無ではないか。社会情勢の変化にあわせ、その時点でもっとも適切な増改築をおこないながら、あたかも生き物のように進化して市民を守る病院であってほしい。	今後の少子高齢化と人口減少等を踏まえ、現状予測しうる範囲の中で、将来への懸念がなくなるように新病院建設事業を進めてまいります。
10	志太榛原地区の医師が激減している。5年後には島田市民病院の医師も確保が難しくなり診療科の閉鎖が、現実となりつつある。島田市医師会としては、若い先生に来ていただけるような病院作りにぜひとも参加したい。	島田市医師会と一緒に新たな病院づくりを行いたいと考えておりますので、ご協力をよろしく申し上げます。
11	病院利用者には子供連れの女性や高齢者など運転に不慣れな利用者が多く含まれており、立体駐車場で整備すれば良いという考えには、利用者の利便性を念頭に置くといった思想が感じられない。	今後、基本計画等の策定段階において、駐車場台数の検討を行い、立体駐車場の整備も含め、使いやすさと安全性に配慮した駐車場計画の立案に努めます。
12	立体駐車場とのことだが、カーブが多くとても危険をはらんでいる。	
13	駐車場は、病人には絶対必要。今と同数の駐車場が絶対に必要となるが、出来るのか。立体駐車場は怖い。	
14	十分な駐車場確保が難しい。立体駐車場は、高齢者には車の出し入れが難しい。	
15	外来患者と入院患者への見舞いの人達が島田市民病院にどの様な交通手段を用いて来院するのか。又、どれ位の時間滞在するのか。資料がまとめられておらず、駐車場必要数等が算出できない。	

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設計画】

No.	意見内容	市の対応	
16	駐車場計画も離れており、通路に屋根を設置すれば患者に便宜を図ったことになるのか。交通事故等に対する責任の所在はどう公約されるのか。	今後、基本計画等の策定段階において、駐車場台数の検討を行い、立体駐車場の整備も含め、駐車場計画を検討してまいります。また、交通アクセスにつきましては、基本計画や設計等及び新病院計画と合わせて策定を検討している新病院に係るまちづくり計画において、病院利用者の利便性に配慮した計画の検討に努めます。	
17	患者を運ぶ車が重なり合うとき、今の市民病院に玄関前の広さがあればこそ大した問題にもならずにいるが、五丁目ではあれだけの広さを確保できないのではないか。		
18	中心市街地の立体駐車場に幹線道路(2車線)沿いとはいえ100m-200mの区間に信号が設置されている区間に出入口を設置し車が左折して入れるようにするシフト長を設置できるのだろうか？混雑が予想され、危険である。		
19	まちなかの市民病院は狭くなる、駐車場が確保できない。		
20	旧ジャスコ周辺地区は、施設のための面積は十分確保できるのだろうか。		
21	まちなかでは、病院に行くのが不便。車でなければ不便であり、「構想」の駐車場は離れていて不便。		
22	駐車場へのアクセスが心配である。		
23	離れた駐車場から階段なども使って歩いてきますか。		
24	駐車場不足もネック。		
25	駐車場の確保がまだまだ不十分。		
26	大規模な駐車場が必要。		
27	駐車場の確保ができるのだろうか。		
28	駐車場も十分広さを確保できない。		
29	付属施設と言われている駐車場は、病院従事者・利用者にとって極めて重要な必置施設である。最低でも現況駐車場数917台は必要として敷地を考えるべきではなかろうか。		
30	駐車場問題は大きい。車社会であり、当然、車の来院が大半を占めるはず。		
31	駐車場の確保もしっかりしていない。		
32	狭い市内の地域では、駐車場の不足が生ずることは事実。		
33	立体駐車場を建設すれば、事業費が嵩み償却が大変になると思われるが、有料駐車場となるのか又、有料の場合は、1時間当たりどれ位を想定しているのか。		今後、基本計画等の策定段階において、駐車場台数の検討を行い、立体駐車場の整備も含め、駐車場計画を検討してまいります。そのため、現在は、料金について検討しておりません。
34	職員の駐車場も遠くなり不便。（ますます職員確保が難しくなる）		職員等関係者駐車場については、今後の計画策定の中で必要台数を検討するとともにその確保に努めます。
35	駐車場について、職員や関係者は車を使わず通勤するのか。		
36	市街地移転の費用対効果の検証。集積による利益で再投資可能な商店街を作れるか？コストを上回る便益をもたらすか？シュミレーションすべきです。		商業の視点から新病院建設を行うわけではなく、総合的なまちづくりの視点から地域の基幹医療施設である病院を建設するものです。そのため、まちなかの効果の予測はしておりますが、費用対効果の検証は予定しておりません。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設計画】

No.	意見内容	市の対応
37	医療従事者に対する労働環境・人材育成を考えれば院内保育所(231.32㎡)や看護専門学校も新島田市民病院(3,020.5㎡)に布置すべきと考える。	院内保育所や看護専門学校は重要な施設でありますので、新病院建設事業の中で、整備等について検討してまいります。
38	16階建なんて、入院患者は不安だ。	基本計画等の策定段階において、建物の耐震性能、安全性、緊急時対応に十分配慮し、病院利用者の利便性に配慮した計画の検討に努めます。
39	緊急時に高層階にいる患者に対しすぐに対応できますか。	
40	建物が高層になり、病人にとって病院内の移動が面倒。	
41	中心部の交通機能を悪化させ、特に緊急患者等の診療条件について悪影響を及ぼす恐れが大きい。	交通アクセスにつきましては、基本計画や設計等及び新病院計画と合わせて策定を検討している新病院に係るまちづくり計画において、検討してまいります。その際、救急患者の対応については、十分な検討を行います。
42	公共交通機関であるバス利用が増えると考えている様であるが、中心市街地においてバスの運行に十分な滞留延長がとれるのか。	バスの停車や回転スペースは重要な課題です。今後、基本計画や設計等を策定する中で検討してまいります。
43	災害拠点病院とヘリポートの関係についての説明が不明瞭。島田市民病院のヘリポートは「ヘリコプターの緊急離発着場」であることを明示し、頻繁にあるわけではないことを説明すべき。	新病院を建設する場合に、災害拠点病院であるためには、ヘリポートの設置が必要になります。現段階においては、ヘリポートの設置の必要性について認識を深めることが重要であると考えております。
44	市街地にヘリが下りることは、万が一の時、非常に危険である。	市街地は建物が郊外と比較して密集しているのが特徴でありますので、その点に留意しながら今後の検討を進めてまいります。
45	現病院の建物償却が済んでいないのに、新しい病院を建てる財政余力はあるのか。	建物償却が済んでいない部分があり、また、新病院建設は多額の費用が必要になりますので、財政面での検討は重要な事項であると認識しております。今後、基本計画等の策定段階において、財政計画について検討を行う予定でおります。
46	低炭素まちづくり法案関連では、本体工事等に関する大規模補助は期待できないのではないのか。	都市の低炭素化の促進に関する法律案については、現在国会で審議中でありますので、補助制度については、具体的に示されておられません。
47	整備候補地の抽出の中では、病院機能本体のみの面積、建蔽率・容積率、種地だけの比較表で、イメージが描けない。病院の機能を仮定し、その条件で建てる場合の必要面積、土地単価、建物㎡当り価格等を示し比較すべきである。	新病院建設地を選定した上で、病院規模、病床数、機能等について、基本計画等を策定する中で検討してまいります。そのため、必要面積、事業費等につきましても、基本計画等を策定する中で、合わせて検討してまいります。
48	新病院建設に関する情報の提供をお願いします。	今後も情報提供に努めてまいります。
49	病院を祭りが行われるような道路に面して建設すると、通行制限や騒音により病院業務に支障をきたすのではないのか。	選定しました新病院建設地に祭りが影響する場合は、病院事業における祭りの影響について検討してまいります。
50	島田まつり時は通行止めになる。救急車で運ばれる病人はリスクを負わなければいけない。	
51	跡地の利用はどうするのだろうか。	跡地利用につきましては、大学誘致候補地などが考えられておりますが、まずは、新病院建設地を検討し、その後、跡地利用についても検討してまいります。
52	島田市の見解によれば液状化の危険が有る地域とされているが、更地となる現島田市民病院跡地は今後どの様に利用されるのか。	
53	現在の病院が移転した場合、跡地の利用方法は。	
54	街中の救急車騒音に関しては考慮したか。	救急車の走行ルートや影響などについては、基本計画策定段階において検討していく予定でおります。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【新病院建設計画】

No.	意見内容	市の対応
55	感染症等の街中での拡大の恐れはないか。	感染症等については、立地場所を問わず、必要な安全管理を行う必要があると考えております。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【災害時対応】

No.	意見内容	市の対応
1	震災による中心市街地は、建物倒壊・道路(耐震設計をしてある道路構造物は橋梁・アンダーパス・規模の大きな擁壁等に限られる。)損壊等で発生した瓦礫を除去し道路を通れる状態に復旧する作業が広範に生ずる区域にもなると考えられる。	敷地規模、動線、事業費などにつきましては、基本計画や設計等の策定段階で検討してまいります。また、新病院計画と合わせて新病院に係るまちづくり計画の策定を検討しておりますので、交通環境等につきましても今後検討してまいります。
2	国道1号の破損等通行不能についての表記は、添付資料での判断か、何処まで確認しているか。まちなか施設の周辺道路沿いの建物、電柱等は耐震化され通行の支障にならないか。	
3	倒壊した建物や電柱、落下した看板などが道路を塞ぐことにより、さらには火災の発生や渋滞などにより、重傷者を病院に速やかに搬送することは極めて困難である。	
4	病院の高層ビルは、災害対策としても問題あり。	基本計画等の策定段階において、建物の耐震性能、安全性に十分配慮した検討を行ってまいります。
5	災害時の避難が困難。19階は必要ない。	
6	住宅街に長物、高い建物があると、災害時に危険を伴う。	
7	十数階建てのビル病院は災害時の避難にかなりのリスクを負うが、どう対処を考えているか。	
8	東海地震が叫ばれているときに、高層階の建物を、それも病院を作ろうとしている考え方がおかしい。	
9	中心部の活性化も結構なことだが、それよりも災害に強いまちづくり、犠牲者をできるだけ少なくする病院づくりの方が、はるかに重要で切実な課題ではないのか。	中心市街地は、複数の幹線道路が整備されており、防災拠点と近接した場所であります。また、都市生活拠点でありますので、中心市街地に病院があることは、災害に強いまちづくりの一環になると考えております。基本計画等の策定段階において、災害時の対応を含めた検討を行ってまいります。
10	14階の建物は災害時に大変不便であり、停電などに際してもヘリポートが設置される予定の屋上から緊急の患者をどう運ぶのか、1秒も争う時間をどう克服するのか疑問。	今後の検討の参考とさせていただき、基本計画等の策定段階において、建物の耐震性能、安全性に十分配慮し、災害時の対応について検討を行ってまいります。
11	狭い敷地に高層階を立てて、エレベーターを増やしたらさらに有効病床面積は減ります。そもそも停電のときはどうするのですか。屋上に使えないヘリポートを作っても意味ありません。	
12	耐震対策面への対応策が全くと感じられない。	

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【医療計画】

No.	意見内容	市の対応
1	志太榛原広域医療圏を意識した構想がない。病院間の連携と競争について、考慮する必要がある。	敷地規模、動線、事業費などにつきましては、基本計画や設計等の策定段階で検討してまいります。また、新病院計画と合わせて新病院に係るまちづくり計画の策定を検討しておりますので、交通環境等につきましても今後検討してまいります。
2	志太榛原地区の医師数は、全国及び県平均と比べて大変少なく、その流出が止まらない。40万人の人口しかない志太榛原地域に4つの総合病院は本当に必要か。この時期に中途半端な病院を設立することは無駄な投資にならないだろうか。	
3	新島田市民病院建設に当たって、（ア）地域医療の充実発展に関し、島田市の医師会等と島田市民病院との連携強化に関する協議はどの様な進捗具合か。又、（イ）広域医療について近隣市町（藤枝市・牧之原市・川根本町等）と医療の連携・役割分担の協議はどうなっているのか。それらの調整の中、医療システムの構想を打ち立てたうえで新病院建設は進めるべきと考える。	
4	二次・三次医療を担当する市民病院と一次医療を担当する島田駅周辺の個人病院との連携をどういう形で実現していくのか。	
5	市民病院移転について、隣のまちで新築してすぐに潰れた自治体病院がある（等々）にも関わらず、島田市だけが成功するとはとても思えない。	
6	新島田市民病院建設と今後の福祉施設の在り方に関して島田市と福祉・介護事業関係者との協議の進捗などは図られているのか。新島田市民病院建設は医療・福祉・介護が連携するシステムを構想したうえで進められているのであろうか。	福祉・介護事業関係者との連携は、市民病院退院後の療養環境において重要なものです。福祉・介護事業関係者との連携は、現状においても重要なテーマでありますので、現在の状況を尊重しつつ、新病院建設において必要な検討を行ってまいります。
7	街中に医療施設が必要なら、個人病院を誘致してもいいはず。公立病院でなくてもかまわないのではないか。	島田市民病院の建て替えを検討する中で、新病院の建設場所を検討しているものです。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【交通環境】

No.	意見内容	市の対応
1	新病院予定地は中心市街地にある。幹線道路が中心市街地部分（土地区画整理事業施工地区）については整備されているように見えるが必ずしもネットワーク化されているとは言い難い。	敷地規模、動線、事業費などにつきましては、基本計画や設計等の策定段階で検討してまいります。また、新病院計画と合わせて新病院に係るまちづくり計画の策定を検討しておりますので、交通環境等につきましても今後検討してまいります。
2	新島田市民病院を中心市街地に移設した場合、利用する公共交通機関と位置づけられるのはバス以外に無いであろう。中心市街地でのバスベイの設置、1時間当たり複数本数の運行等に関してバス事業者等と打合等を進めているであろうか。	バス交通に関しては、新病院計画と合わせて策定を検討している新病院に係るまちづくり計画において検討が必要な課題であると認識しておりますので、バス事業者等と必要な協議を行う予定です。
3	市の現況を「公共交通利用者の減少」と判断している一方で、現病院の課題に「公共交通アクセスは良好ではない」としていることに矛盾を感じる。	今後の検討の参考とさせていただき、交通アクセスにつきましては、新病院計画と合わせて策定を検討している新病院に係るまちづくり計画において検討を予定してまいります。
4	中心部に移転しても、そう簡単に自家用車から公的 交通機関への変更はあり得ない。	
5	公共交通機関でのアクセスは現実的ではない。	
6	患者の動向や交通手段を考えた場合、自動車を利用する方が多いことは判明している。	
7	道路網については、全く同意しない。現在地は、五丁目よりもはるかに良い環境であると考える。	
8	コミュニティバスのようなシステムは必要だが、現状のコミュニティバスでは一般人の生活は成り立たない。	
9	LRTやきめ細かなバス路線網等の交通手段整備をするなら、この限りでないが、自動車移動を前提とすると、市中心部への人の流れを復活させるという狙い通りの効果を発揮するとは考えにくい。	
10	街の動線と病院の動線が同一であるため、祭りの時期など特に交通の渋滞、混雑などが考えられる。	
11	中心街の交通事情は、現状でさえ車両の通行量が多く、混雑や不便をきたしがち。そこへ病院が移転することになると、車の状態が激しくなることは容易に予測できる。	
12	車で病院や商店を利用しようとする者にとって、まことに気が重い道路事情を誘発する計画である。	
13	街中の病院では、駐車場の確保が難しい。交通渋滞を招く恐れがある。	
14	飛躍的に公共交通機関（バス）が便利な路線設定、運行頻度が無いと、新島田市民病院にも今と同等の駐車場（917台）が必置施設となると思われる。	

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【まちづくり】

No.	意見内容	市の対応
1	病院関連施設と近隣地域との土地利用の整合性とは何かわからない。病院施設と親和性のある土地利用とは何か？具体的にどの様な土地利用か例示願いたい。	敷地規模、動線、事業費などにつきましては、基本計画や設計等の策定段階で検討してまいります。また、新病院計画と合わせて新病院に係るまちづくり計画の策定を検討しておりますので、交通環境等につきましても今後検討してまいります。
2	人口の中心市街地への誘導に関して島田市は、コンパクトシティの施策とは反対方向の郊外に分譲地や団地を造成してスクロール化を進める政策を推し進めている様に思える。	以前は、人口増加・都市拡大傾向を踏まえたものがあり、ご指摘のような部分はあるかと思いますが、今後の少子高齢化と人口減少を踏まえると、今後のまちづくりは、様々な機能を集約化した総合的なまちづくりが必要であると考えております。
3	新島田市の周辺地域からみれば、現市民病院も中心市街地に位置している。島田駅前への移転は、「都市機能の集積」ではなく「都市機能の密集」に過ぎない。	例えば、歩行者動線を検討する場合においても、現在の市民病院の場所とまちなかでは、同じ考えで検討することは難しく、違う土地利用の考え方が必要になると考えております。今後の少子高齢化や人口減少を踏まえると、今後のまちづくりは、様々な機能を集約化した総合的なまちづくりが必要であると考えております。
4	活性化とは、にぎわいとは何なのか、その本質が見えてこない。	活性化やにぎわいという点からは、短期的には、商業振興面での効果が考えられますが、中長期的には商業だけでなく、福祉、医療、介護、住宅などの面からも検討が必要になると考えられます。そのような検討を進める中で、新たなまちづくりの形が具体的に becoming くるものと考えております。
5	使い勝手の悪さや混雑を克服できるような、魅力ある「まちなか」を実現できる方策があるならば、その具体策を早急に提起すべき。	
6	まちなかを活性化させるためになぜ病院を移転させるのか。	今後の少子高齢化や人口減少などを踏まえると、今後のまちづくりは、様々な機能を集約化した総合的なまちづくりが必要であると考えております。
7	町の中心部の発展のために施設を町内へ持ってゆくのはおかしい。	商業施設の活性化のみならず、中長期的には福祉、医療、介護、住宅などの面からも検討が必要になると考えられます。そのような視点から考えますと新病院建設は、重要な事業であり、将来のことを踏まえた総合的なまちづくりの観点から新病院建設地を検討していく必要があると考えております。
8	市の中心部に病院を移転すれば、まちなかに人々の交流が生まれ、市街地の活性化が期待できるという構想は、短絡的である。	
9	商店街の活性化を名目に掲げているが、駐車場スペースのために多くの店などの土地を買収した場合、何を活性化するのか明確でないことになる。	
10	「まちづくり」と病院建設をなぜ一緒に考えなくてはならないのか。病院をまちなかに持ってきて経済効果を期待しても無理がある。	
11	病院の建設は、商業を抜きにして、純粋な医療の観点から検討してほしい。	
12	病院利用者に不便を強いて、その犠牲のもとに中心部の活性化を図ろうとする構想は、全く本末転倒。	
13	商店街活性化と病院建設は別物ではないか。	
14	まちの再生と新病院建設は、別問題と考えるべきである。まちなかに移転した場合に、もたらされる成果・効果の具体的なデータ及び維持・継続できる良好なる医療環境に関する確かな資料提供を求める。	
15	商店街が本当に好ましい街造りになるとは思えない。行き交う車が多ければ、安心して買い物も出来ない。	交通環境等につきましては、新病院計画と合わせて策定を検討している新病院に係るまちづくり計画において検討を予定しておりますので、安全に配慮した計画づくりに努めてまいります。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【まちづくり】

No.	意見内容	市の対応
16	菊川市は、市の活性化策として駅近隣に高層マンション、ショッピングセンターを建設している。島田市もやるべき。「安心・安全・快適街造り」は、単なる街造りでは建築・建設を喚起し、雇用の促進による景気回復の原点だと思う。	高層マンションやショッピングセンターなどの建設による中心市街地活性化につきましては、新病院建設で考えることではなく、中心市街地の活性化に主眼を置いたところで検討していく問題であると考えております。
17	医療施設移転で、市街地活性化がそんなに簡単に実現できるのか。裏付けデータに適用した数値・割合の妥当性に疑問があるとともに、病院利用者とショッピング目的とを同一視してしまうことが問題である。果たして、満足な費用対効果が得られるのか。誤算に終わった場合の責任は誰が取るのか。	新病院建設は、商業の視点を中心として行うわけではなく、総合的なまちづくりの視点から地域の基幹医療施設である病院を建設するものです。基本構想においては、病院立地に伴う効果を整理しておりますが、具体的な商業面での振興施策につきましては、中心市街地に関する他の計画で検討されていくものと考えております。
18	病人が来院しても、街の活性化にはつながらない。	
19	市民病院はある程度重い患者が多いと思う。町の中を歩いて買い物できる元気の人があま里いるとは考えられない。今の病院の近所を見ても分かると思うが、商店街にお金落ちる話は少し変。	
20	夜間人口を増やさないことには、街の活性化はあり得ない。	
21	周辺の商店が活性化されるとは思えない。	
22	街が活性化するとの予想は、「バラ色」であり現実的ではない。	
23	バイパスが遠くなるため、商店街が病院の移転によって活性化になるとは思えない。	
24	人の流れは長期にわたり出来るもの。今まで出来た流れを潰すのではなく、洗練させてほしい。	
25	商店街の活性化は、商店街が中心となって推進すべきで、病院が出来ても現状は変わらない。	
26	病院は患者が主人公だと思うが、商店街が発展するというところに話を替えていると思う。	
27	実施中、実施済みの「中心市街地活性化策」の評価がないまま、新たな活性化策の提案は納得しがたい。	
28	現状では、利用者のさまざまなニーズに対応できる小売店が、候補地周辺にあまりに少ない。小売店が出店しても、それぞれの小売店で買い物をするのは非効率である。	
29	昭和30年代、40年代のようなぎわった街並みが戻ることを願うが、市民病院をして街並みの活性化の基点とするという考え方は間違っている。	
30	中心部に移転しても、今までと変わりなく利用者が来院して、まちなかで買い物をする人が増えるという確証や根拠はどこにもない。もっと利用者の立場に立って、その心理を読み解く必要がある。	
31	病院が移転しても、活性化には繋がらない。現病院の周りが繁盛している様子はまったくない。病人が不便になるだけ。	
32	商業売り上げ額の推計に無理がある。	

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【まちづくり】

No.	意見内容	市の対応
33	島田は市役所をはじめ多くの施設が中心市街地にあり、コンパクトな街である。10万都市でコンパクトシティへの再構築は可能であろうか。	今後の少子高齢化や人口減少などを踏まえると、今後のまちづくりは、様々な機能を集約化した総合的なまちづくりが必要であると考えております。現状だけでなく、福祉、医療、介護、住宅などの面からも含めて、将来を見据えて、都市機能の集積については、考えていく必要があると考えております。
34	コンパクトシティ構想は箱物にした場合、失敗例が多い。	
35	病院を市街地の中心に組み込み、賑わいを呼び込むというコンパクトシティ構想は、震災のことを考えなくてよい世界の話だと思う。	
36	「コンパクトシティ構想」自体十分に理解されていないのではないか。「コンパクトシティ構想」そのものに反対する。	
37	住居が郊外に移動できたのは自動車があったから。いったん広がってしまった居住区を市街地に戻そうと考えること自体無意味である。	
38	島田の現状として、コンパクトシティを成立させる要素である「施設の中心街への集中」「まちなか居住の促進」「交通体系の構築」のうち、「まちなか居住の促進」のための施策はまったくおこなわれておらず、「交通体系の構築」についても公共交通サービスは悪化している。	
39	街の活性化として市中心部をターゲットに考えるのは古い。島田市に限らず、地方では郊外の店舗のほうで賑わいを見せている。	
40	都市機能は確実に郊外型から都市集約へと向かい、ダウンサイジングの効率追及すべき時代背景であることは明らか。駅、総合医療機関、行政エリアを中心に活気ある街づくりを進めてほしい。	
41	まちなか集積医療のモデル都市に島田市がなることが出来れば、すばらしい。	
42	豊橋市の例が記載されていますが、島田がやろうとしていることとは反対のことなので、参考にはならない。病院でも商業施設でも中心部から無くなれば、人が減るのは当たり前。島田がやろうとしていることと同じ事例をあげるべき。	
43	市中心部に病院が移転して、発展したモデルケースがあるのか分からない。来院者が多いから発展に寄与するというのであれば、現在の場所も発展しておかしくない。	
44	市民病院の周辺地区の土地利用不整合について考えると、中心市街地均衡ゾーンとしてのアクセス道路は貧弱で、いわゆるロードサイド型の施設を誘導するインフラ側からの仕掛けが何も無く現状の如くである。病院移転後の利用がどうなるか構想にないが、ばらの丘公園方面のアクセスも含めストリートスケープを構築すべきである。	同様な事例はまだ多くはありません。島田市の事例が全国的なモデルケースのひとつになれるように、事業を進めてまいります。 現市民病院周辺の整備につきましては、大学誘致候補地などが考えられておりますが、まずは、新病院建設地を検討し、その後、跡地利用についても検討してまいりますので、その時点で必要性も含めて議論することであると考えております。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【まちづくり】

No.	意見内容	市の対応
45	総合研究開発機構(NIRA)は、まちなか集積医療に関して、都市計画全体の中で捉えなければならないほどの方針転換の要素を含むとしている。島田市のように単に新島田市民病院の移転次元の話ではないように思われるが如何だろうか。慎重に対応する必要がある。	総合研究開発機構の提唱するまちなか集積医療につきましては、2次医療圏を意識したものであり、まちなかへの定住人口の増加や都市インフラの再編なども考慮されております。当市においては、単なる新病院の移転ということだけでなく、総合的なまちづくりの視点から当市の実情にあった計画を検討してまいります。
46	期待される効果の記載が抽象的で、内容に乏しい。意義も不明確。NIRAの同構想は、高齢者の中心市街地への移転促進を提言している。周辺部切捨ての発想ではないか。	
47	「まちなか集積医療」という考え方では、その実現のために複数の自治体の参加による広域都市計画の策定、都市インフラの再編によって都市サービス境界の縮小を諮るとされており、その主体は官民出資による「デベロッパー」とされているが、この構想では全く触れられていない。	
48	医療機関と駅までの区間は、駅を中心とした利用者が主に回遊するエリアとし、医療機関と駅の外側に位置するエリアは車を利用してアプローチされる人が気軽に駐車するスペースと回遊しやすい買い物エリアとして区分けするのが妥当と思う。ドイツのパークアンドライドのように、外周部に駐車場を設け、その内側に、ミニバスの巡回エリアにすることで高齢化する地域としての都市の活性化を図るべきではないかと思う。	まちなかにおける回遊性の検討につきましては、新病院計画と合わせて策定を検討している新病院に係るまちづくり計画において検討を予定しております。また、周辺地区整備につきましては、新病院建設だけでなく、中心市街地全体の施策の一環として検討していく必要がある課題であると考えております。
49	市街地の環境整備は五丁目まで進み、その後とん挫している。六丁目は区画整理を待つ方が多いのか定かではないが、外観が著しく美観を損ねている。商業地としての状態やアーケードの管理など問題は拡大していくものと思うので、解決するため、北側を道路に面した駐車場とし、アーケードの撤去、商業店舗はセットバックし、本通沿いに駐車しやすく買い物し易い地区へと改善できるのではと思う。	

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【検討方法】

No.	意見内容	市の対応
1	「パブコメの募集後、中心市街地の候補地5ヶ所から1ヶ所を選定し、今年度末に予算化とのスケジュールを見込んでいる」との答弁があったが、市民にパブコメを求める要綱に、このような重要な判断材料を記載しないのは、不適切ではないか。	敷地規模、動線、事業費などにつきましては、基本計画や設計等の策定段階で検討してまいります。また、新病院計画と合わせて新病院に係るまちづくり計画の策定を検討しておりますので、交通環境等につきましても今後検討してまいります。
2	現施設改造までを含めた各選択肢を自然体で比較した結果を市民に示し、民意を問うのが本来の姿ではないか	現在地につきましては、軟弱地盤や建て替え期間中の駐車場や安全対策などの面から好ましいとは評価できないと考えております。今後の新病院建設場所の検討につきましては、基本構想で検討しました建設候補地を基に比較検討を行ってまいります。
3	「基本構想」の本来中心的立場である病院関係者それを補完すべき立場の消防署、警察署等の意見が聞こえてこない。	現状、病院関係者とは情報交換を行っておりますが、病院の機能や救急車のことなど具体的なことにつきましては、基本計画等を策定する段階で検討していく予定です。状況に応じて、一緒に検討を進めていきたいと考えております。
4	医療現場からの課題、意見、要望が全く見えてこない。	
5	当然、病院の職員や地域医師会の意見や要望を配慮すべきところであるが、今回は、当職種に一切の説明がなく、相談が無いということは将来的に協力体制の構築は不要と考えているのか。	現状は基本構想を策定している段階でありますので、その後、地域医師会等関係団体にご説明し、ともに協力体制を構築し、病院づくりを行っていきたいと考えております。
6	費用面での検討が皆無な中で「ジャスコ跡地」を最適とする本構想案を市民に提示するのは不誠実といえるのではないか。	建設候補地の諸条件により事業費に違いがありますので、候補地ごとに事業費の明示をしておりますが、新病院建設は多額の費用が必要になり、財政面での検討は重要な事項であると認識しております。今後、基本計画等の策定段階において、事業費を検討してまいります。
7	なぜ投入費用の明示がないのか。	また、経済的効果と社会的効果につきましては、新病院建設事業だけでなく、中心市街地全体に関わることであり、中心市街地全体に関わることでありと考えております。
8	財源、事業規模が見えてこない。将来の財政にどのような影響を与えるのか、この点をはっきりさせないと市民は判断できない。	また、経済的効果と社会的効果につきましては、新病院建設事業だけでなく、中心市街地全体に関わることでありと考えております。
9	移転した場合の投資額が明示されていないため、判断基準が見出せない。将来の財政負担及びまちなか集積医療事業の経済的効果と社会的効果が分かる資料を求める。	
10	志太榛原地域医療協議会、中部保険所、県に対して報告がなされていないが、いかがか。	県に対しては事前相談を行ったことはありますが、現状は、基本構想策定段階でありますので、今後、具体的な検討を行う段階において報告・協議を行ってまいりたいと考えております。
11	未確定・未検討事項が多い状態で、不十分な構想案をもとに市民に意見を求めることは、不適切と考える。	今後予定しています基本計画等の策定段階で検討する事項も多くあります。今後も皆様からのご意見を伺いながら事業を進めてまいります。
12	コンパクトシティ、『まちなか集積医療基本構想』、低炭素まちづくり計画等の関連は市民に十分な資料を公表しながら議論し、明確に都市計画に位置付けて現実化していくべきと考えるが如何か？	各計画を策定する場合には、市の制度に沿って、公表してまいります。都市計画への位置づけについては、ご意見として参考にさせていただきます。
13	先の議会でも「病院移転と大学誘致は一体」「大学誘致が実現すれば多額の経済効果が期待できる」旨の発言があった。大学問題と切り離して、この時期に病院のみのパブコメを実施することに意味があるのか。	新病院建設事業は、地域の基幹医療施設を建設する重要な事業でありますので、今後も引き続き、新病院建設事業として検討を進めてまいります。
14	パブリックコメントについても、もっと市民に広く知らせるべき。	パブリック・コメント実施の周知は、広報しまだ及び市ホームページへの掲載、島田市情報公開コーナーでの閲覧、FMしまだでの告知を行っております。今後も多くの方に知っていただけるように努力してまいります。

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【検討方法】

No.	意見内容	市の対応
15	当市の将来に影響を及ぼす重要な案件であり、市民の十分な理解・合意を得たうえで進めることが望まれるが、今回のパブコメについても、その進め方に疑問がある。パブコメ結果の活用について、「中心市街地立地は既定方針でありパブコメ結果により基本的考えが変わることはない」、「パブコメの要望については、できるだけ反映させていく」という議会答弁で言及があった。	パブリック・コメント制度の主旨を踏まえ、いただいたご意見については、貴重なご意見として検討し、新病院建設事業に反映させてまいります。
16	意見募集期間が短い。	パブリック・コメント制度に基づき意見募集を行っております。ご理解ください。
17	市民の声を聞いて議会での十分な議論を望む。	市としましては、市議会に対して必要な内容を説明してまいります。
18	民意を正確に反映させたまちづくりを実現するため、次回の市長選挙及び市議会選挙の争点とするか、住民投票で結論を出すか。そのいずれかを、強く要求する。	市としましては、皆様からのご意見を伺いながら、検討を進めてまいりたいと考えております。
19	入院患者の方々に今回の基本構想（案）はおはかりしたか。	島田市の重要な施設でありますので、パブリック・コメント制度を活用し、島田市民の皆様等に対してご意見を募集しておりますので、その中で患者の皆様からのご意見を伺っていると考えております。
20	一番恩恵をうけるとと思われる患者さんたちの意見は反映されているのか。	
21	消費活動の中心となる階層は、若者である女性たちである。彼らの意見にも謙虚に耳を傾けながら、病院移転とは違った観点から、もっと魅力ある街づくりについて本質的な議論を展開すべきである。	新病院建設事業以外にも中心市街地活性化などさまざまな視点から魅力ある街づくりについて検討しております。新病院建設以外の点につきましても、それぞれの場面でご意見をお聞かせ願えればと考えております。
22	病院を利用する確率の高い高齢者の意見を、もっときめ細かく丁寧に聞くべき。	皆様からのご意見を伺う機会として、パブリック・コメント制度を活用し、広く意見募集を行いました。当面、説明会の予定はありませんが、今後も基本計画策定段階など皆様からのご意見を伺いながら進めてまいります。
23	近隣・地区別説明会の予定がないが、説明会は行わないのか。	
24	住民の意見も聞かない市長のやり方に文句を言いたい。民主的でない。	
25	今後時間をかけて、市民への説明責任を果たせるだけの十分な議論をしていただきたい。	

まちなか集積医療基本構想（案）パブリック・コメントへの対応結果について

【その他】

No.	意見内容	市の対応	
1	市議会は、どれくらい議論してこの案にまとめて いってあるのでしょうか。どうか市民ともっと話し 合ってしっかり議員さん一人一人の責任のある決論 にしていって下さい。	敷地規模、動線、事業費などにつきましては、基本 計画や設計等の策定段階で検討してまいります。ま た、新病院計画と合わせて新病院に係るまちづくり 計画の策定を検討しておりますので、交通環境等に つきましても今後検討してまいります。	
2	議会は一体機能しているのか。		
3	病院移転の理由に、アクセスの悪さ、地盤の弱さ、 液状化等の問題を上げている。病院の立地としては 適していないが、大学なら誘致・建設してもよいと いうのか。	大学誘致に関しましては、大学側の意向も重要にな ります。今後、大学誘致を進める中で、安全性も含 めて必要な協議を行ってまいります。	
4	現敷地に大学を誘致する方向性を示しているが、地 盤状況の危険性は大学当局も了承しているのか確認 したい。		
5	新たに当地に誘致を考えている大学の設立の安全性 はどうなるのか。		
6	建物の老朽化と耐震性の不完全性を課題としてあげ ている現市民病院の建物を大学に提供しようとして いること、「新病院は旧ジャスコ跡地に」を前提に して大学誘致を進めていることは非常識。		
7	大学を五丁目に持ってくるのは大賛成。地方の大学 は、広い土地と緑の中に作るものとの概念は古い。		
8	島田市としては、進出を検討する大学に経済的な支援 やその他の支援を考えているのか。もし考えている ならば、その支援の中身を市民にもできるだけ早く 公開する義務がある。		
9	大学誘致が移転の前提になっているとすれば、目的 が全く異なる。		
10	大祭など、本通りの文化的な位置づけに対する配慮 は出来ているのか。		選定しました新病院建設地に祭りが影響する場合 は、病院事業における祭りに対する影響について検 討してまいります。
11	候補地番号5に仮に決定された場合、本通りを利用 した祭りの開催は可能か。		